

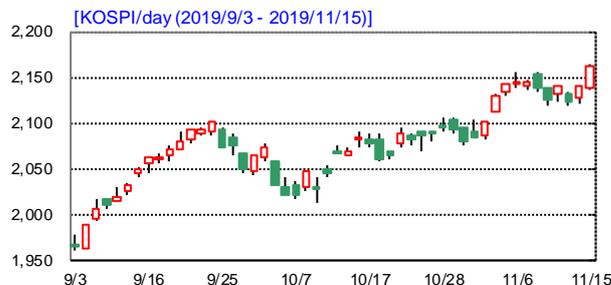


【韓国】 総合指数は 1.2%高と 6 週続伸、約 6 カ月ぶり高値水準

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.2%高と 6 週続伸。米中貿易協議の先行き不透明感が相場の重しとなり、週半ばまでは軟調に推移したが、後半に巻き返した。週前半はトランプ米大統領が中国側発表の「関税撤廃で合意」を否定したほか、「第 1 段階で合意できなければ、対中関税を大幅に引き上げる」と発言したことに加え、香港情勢が嫌気された。ただ、週後半はヤフーを運営する Z ホールディングスと LINE の経営統合報道を受け、14 日には LINE の親会社であるネイバーが大幅高。15 日は米中協議が第 1 段階の合意に「近づいている」との米要人の発言が好感され、約 6 カ月ぶり高値で引けている。今週も引き続き米中協議を巡る関連報道に左右される展開が続くと予想する。経済指標では 20 日に 10 月の PPI が発表される予定。

▼指数チャート

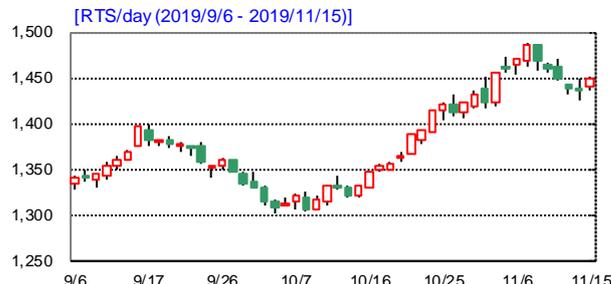


【ロシア】 RTS 指数は 1.3%安と 6 週ぶり反落、今週は米中問題で売り買い交錯か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 1.3%安と 6 週ぶりに反落。米中通商協議の不透明感や香港情勢の悪化を受け、軟調な展開となった。米中通商協議の先行きに対する警戒感や緊迫した香港情勢を背景に投資家心理が悪化し、RTS 指数は前週の 8 日から 14 日まで 5 営業日続落。6 年ぶりの高値圏にある中で、利益確定売りも出やすかった。15 日はクドロー米国家経済会議 (NEC) 委員長などから米中通商協議について前向きな発言が出たことで、前日比 0.9%高と反発し、下落幅を縮小して週の取引を終えている。個別銘柄では、天然ガスのガスプロム (6.8%安)、非鉄金属の MMC ノリリスクニッケル (4.5%安)、ノバテク (2.1%安) の下落が指数の重しとなった。今週は米中協議に関する報道や原油相場の動向をにらみ、慎重ムードが続くか。

▼指数チャート



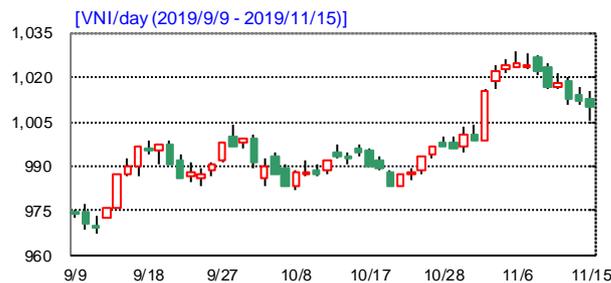
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 1.2%安と 4 週ぶり反落、今週は神経質な展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 1.2%安と 4 週ぶりに反落。米中通商協議の先行き不透明感や香港のデモ激化によりリスクオフムードが強まった。週明け 11 日は米中通商協議への警戒感を背景に東南アジア市場全般でリスク回避が広がり、VN 指数も前週末比 0.6%安と続落。12 日は香港の保険大手 FWD グループがベトナムバンクの子会社を買収すると伝わり、ベトナムバンクが上昇し、指数も小幅に反発したが、その後は再び米中通商協議の不透明感や香港のデモ激化に対する警戒感に加え、中国の弱い経済指標も嫌気され、リスクオフの流れが続いた。個別銘柄では、ピナミルク (4.8%安)、ビンホームズ (2.2%安)、ベトナムバンク (2.0%安) などの下落が指数の重しとなった。今週は米中問題や香港情勢をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.8%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で0.8%安と3週続落。週末の反発が下げ幅を縮めた。週初の11日は香港の抗議活動激化や米中貿易協議の先行き不透明感が嫌気され、指数は反落。12日は買い戻されたが、13日に反落すると、14日は中国の10月の鉱工業生産と固定資産投資、小売売上高がそろって市場予想から下振れた影響を受け、終値で5週間ぶりの安値を更新した。一方、15日は10月の貿易収支が2カ月ぶりに黒字となった効果で金融株を中心に買い優勢となり、3日ぶりに反発して引けている。今週は21日に中央銀行が定例会合を開催する予定で、前回まで4会合連続で引き下げられた政策金利の動向が焦点。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%安、今週は10月の非石油地場輸出に注目

ストレーツタイムズ指数は週間で0.8%安と6週ぶりに反落。外部要因が指数を下げた1週間だった。週初の11日は中国株の下落に連動して続落。12日はトランプ米大統領のニューヨークでの演説を目前に控え、米中通商合意に関する発言への期待感から買い戻された。一方、13日は演説で合意についての詳細が発表されなかったことが売り材料となり反落すると、14日も続落。15日はインド事業での特別損失計上を受けて、7-9月期決算で赤字転落したシンガポール・テレコムの下落を工業関連株の上昇で補い、指数は反発して取引を終えた。今週は18日発表の10月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 2.2%安、今週は7-9月期のGDPが焦点

SET指数は週間で2.2%安と反落。国内の重要イベントが少ない中、じりじりと下値を広げた。週初の11日は、前週末にトランプ米大統領が米中の制裁関税撤廃について合意に至っていないと発言したことなどが嫌気され、指数は続落。12日は金融株を中心に値上がりして反発したが、その後は買い材料に乏しく売り優勢の展開が続き、15日は7-9月期の業績が不振だった通信株の一角が売り込まれ、3日続落して取引を終えた。今週は18日の7-9月期のGDPに続き、22日には10月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。外部要因では20日に公表される米FOMC議事要旨の内容が意識されそうだ。

▼指数チャート

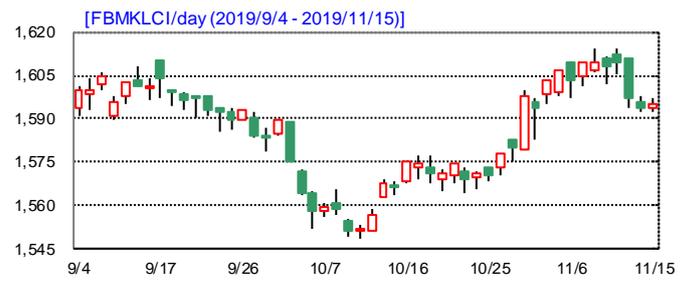


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%安、週半ばに1600ポイント割れ

クアラルンプール総合指数は週間で0.9%安と3週ぶりに反落。週半ば以降は1600ポイントを下回る水準での値動きだった。11日は9月の鉱工業生産が前年同月比1.7%増と市場予想から下振れた影響などで、指数は3営業日ぶりに小幅反落。12日はパーム油価格が約2年ぶりの高値を更新した効果でプランテーション株が買われて反発したが、13日は7-9月期の決算が54%減益だったペトロナス・ケミカルズが下落を主導し反落した。14日に続落した後、15日は7-9月期のGDP成長率が前年同期比4.4%と市場予想と一致したことで安心感が広がり反発している。今週は20日に10月のCPIが発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。